

先生方が各クラスをまわる交流道徳をしています。

学年の先生方が教材を通じて思いを伝える道徳を1学期から実施しています。2周目が2学期中に終わり、3週目が始まっています。人が違えば人生も、考えも違う。各先生方が投げかけた問いにみなさんは、どう感じ、どう考えたでしょうか。(※3学期も実施予定です。)

教科書に出てくる登場人物の置かれた状況や、直面している課題は、みなさんが今知っている世界の範囲の「ごくわずか」です。より自分のこととしてとらえた言葉を、これからも「こころのあゆみ」にたくさん記せるようにしましょう。

- ① 深田先生:C(11)「渡良瀬川の鉋毒」 ② 石田先生:D(21)「夜は人間以外のものの時間」
 ③ 川野先生:B(9)「注文をまちがえる料理店」 ④ 月城先生:C(18)「六千人の命のビザ」
 ⑤ 山根先生:C(12)「今度は私の番だ」 ⑥ 菊池先生:D(22)「自分を信じて生きるとは……」
 ⑦ 新谷先生:D(20)「冬の使者『マガン』」

2学期の道徳科の授業をふり返りました

先日、2学期の道徳の授業での学びについて、人ひとりの生徒にじっくり考えてもらう時間をとりました。2学期の道徳の授業にそれぞれが思いを馳せながら、心に残った教材、道徳科の授業で学んでよかったこと、そして、3学期に向けて取り組みたいことなどを考えてもらいました。子ども達が書いたふり返りのシートには、それぞれが、心を使ってしっかりと考えてきた足跡が、たくさん残っていました。

〈子どもたちのこころのあゆみより〉

自分の心の弱さを実感し、生きていきたい。心の弱さというのは、誰でもあろうと窮地に追い込まれたときに出てくるものだと思う。追い込まれると人は冷静さを失い、普通の感覚がなくなってしまうんだと思う。

上京の誇りをたくさん見つけて学校を大切にしたいと思った。また、学校の誇りというのは思い出になるし、愛校心が生まれ、より大切にしたいと思い、自慢もできると思った。

人間だけが楽に過ごせる環境を作るだけでなく、他の生き物の気持ちになって、その生き物も楽に過ごせる環境を作っていくのが大切だと思います。人間だけではできないことがたくさんあると思います。森や生物などの自然が必要で、私たち人間は日々感謝し、環境保全することが大切だと思います。

相手に悲しい嫌な気持ちをさせずにすむことで、自分も相手に対しての罪悪感が生まれません。相手を思いやることで誰しもが心にゆとりをもって気持ちのよい生活を送ることができる。

世界の中で生きる一人として、何か大きなことをしようとするのではなく、世界各国の情勢について知り、思いやりの心をもつことが大切だとわかった。

たくさんの人がいて、マナーなどの感じ方は人それぞれだから、どんな人からも迷惑だと思われない行動をしたいです。

★ 自分の学びをふり返ろう ★

① 授業の取り組みについてふり返ってみよう。

1. 教材について、興味をもった点があったか?	(A) B C D
2. 自分の考えをもち、大切に思えることができたか?	(A) B C D
3. 授業の考えを、自分の考えに活かす機会があったか?	(A) B C D
4. 授業の内容について、深く考えることができたか?	(A) B C D

② 今学期(今期)に読んだ教材の中で、心に残ったものは何ですか。どのようなことが心に残っていますか。

教材名	心に残ったこと
11「冬の使者」	冬は寒い季節だが、雪が降ると世界が白くなり、心が静かになる。雪が降ると心が静かになる。雪が降ると心が静かになる。
12「今度は私の番だ」	自分の番が来ると、ドキドキする。でも、自分の番が来ると、ドキドキする。でも、自分の番が来ると、ドキドキする。
13「六千人の命のビザ」	戦争は怖い。でも、戦争は怖い。でも、戦争は怖い。でも、戦争は怖い。

③ 今学期(今期)をふり返って、道徳科の授業で学んでよかったことはどのようなことですか。

友達や仲間がいて、心強い。友達がいて、心強い。友達がいて、心強い。
先生が話を聞いてくれる。先生が話を聞いてくれる。先生が話を聞いてくれる。
自分の考えを言える。自分の考えを言える。自分の考えを言える。

④ 来学期(来期)の道徳科の授業には、どのように取り組もうと考えていますか。

友達や仲間と協力して取り組む。友達や仲間と協力して取り組む。友達や仲間と協力して取り組む。
先生の話に集中して聞く。先生の話に集中して聞く。先生の話に集中して聞く。
自分の考えを言える。自分の考えを言える。自分の考えを言える。

